

個人の社会関係資本と親の社会関係資本が学力に与える影響 — 日中の大学生を対象として —

呉 雨婷

Abstract

This paper conducted a questionnaire survey among university students in China and Japan. From the perspective of social capital, this paper discusses the relationship between social capital and academic ability. As a result, the similarities and differences of social capital between Chinese and Japanese university students was found. Japanese university students are more inclined to family, while Chinese university students' social capital is inclined to more non-family relationships. In addition, it is also known that Japanese university students' bonding social capital affects their GPA and bridging social capital affects their learning intention. In China, university students' bonding social capital affects extracurricular activities and learning intentions. Parents' bonding social capital influences GPA and bridging social capital influences study intention.

We also know that in Japan, parent-child relationships and the social capital within the family influence university students' GPA. Thus, it is proposed that Japan's social capital tends to the type proposed by James Samuel Coleman. In China, parents' social capital and family social capital influence school recommendation through whether they have been recommended or not. Thus, it is speculated that China's social capital is more of the Pierre Bourdieu type. To sum up, we believe that poor families in China can produce excellent children, and the strength of family closeness in Japan can also improve academic ability.

キーワード……社会関係資本 学力 親子関係 大学生 日中

1 問題の所在

日本と中国は儒家文化などの影響もあり、両国とも昔から教育を重視してきた。現在、生活の水準が向上したことで、両国ともさらに教育を重視していると言える。

中国の場合、経済が飛躍的に発展する中、親は子供に良い教育を受けさせたいという意欲が強くみられる。親たちは子供が小さい頃から、周りの子供に負けないように、様々な「興味」クラスや塾に参加させる。また、仕事する親は多忙であっても子供の勉強を見ることに熱心である。貧しい家庭では、親は自分の子供に良い教育を与えるために、子供を故郷に置いたまま、都市で苦勞して働きさえている。

日本の場合も同様に、親たちは子供の教育を重視する。親が有名な学校を卒業した場合、子供をその学校に入れようとすることもある。ある親は私立学校が良いという考えを持ち、子供が小学校から私立学校に行けるように頑張らせて勉強させる。また、日本では、階級の固定化が生じており、教育に対する格差がさらに拡大することが示唆される。

このように、国籍を問わず、日本と中国の親たちは自分が今まで積み上げた「資本」を使って、子供の教育を助力している。日本では従来、学力について文化資本あるいは経済資本から調査研究している場合が多かった。近藤博之（2012）は親の学歴という文化資本は教育達成に影響を与え、古田和久（2018）は経済資本より、文化資本が学歴に強い影響を与えることを明らかにした。社会関係資本（以下 SC と表記）からの研究も近年行われるようになった。志水宏吉・高田一宏（2012）は親の SC と子供の SC は正の相関を持っていることを調査データから示した。ただし大学生を対象としての SC と学力との関係の研究はあまり行われていない。

中国の場合、経済が成長する中、教育の両極化も進んでいる。「寒門出貴子」（貧困な家庭で優秀な子供を育てられる）できるかどうかという議論が中国では盛んである。経済資本、文化資本の観点から見ると、やはり壁と限界があり、「寒門出貴子」は難しいといえる（応 2020；劉玲 2019）。また、SC という視点から「寒門出貴子」できるかどうか検討する必要がある。

そこで、社会関係資本は大学生の学力にどんな影響を与えるのか明らかにすることを本稿の目的とする。日本と中国は国情や文化や歴史などが違うので、両国の国民が教育に対してもつ意識が異なり、SC の作用にも違いがあることが想定される。本稿で日本と中国の SC に違いはあるか、あるとしたらどのような違いかを明らかにする。これを第 2 の目的とする。

最後に、J.コールマンと P.ブルデューの間で SC について見解が異なることを手がかりとして、日中の大学生の教育公平性の問題を明らかにしたい。このような教育の問題への関心から、本稿で学力と SC の関係を研究目的として定める。

2 先行研究と仮説の設定

SC と教育の関係について、コールマン（1988）は家族内の SC は子供の教育にとって重要であることを示している。コールマンは「家族の SC とは、親と子の関係のことである（親以外の家族メンバーも含む）」（1988：224）と述べ、親子関係は SC に影響を与えることを示した。また、両親の人的資本は家庭で利用されなければ、子供に影響を与えないことも指摘された。しかし、これらの先行研究では、教育と SC について未成年の子供に関する考察が主であり、大学生に関する考察は見られない。大学生は成年であり、自立意識と思考力も高く、親に対する依存度もそれほど高くはないと考えられる。そこで、本稿では大学生に注目し、教育と SC の関係を解明したい。

また、R.パットナム（2000＝2006：19-20）は、ネットワーク論の影響を受け、SC を結束型と橋渡し型に分類した。結束型 SC は内向きで、特定の互酬性を安定させ、連帯を動かしていく

のに良いが、「排他性」があり、外集団に対して負の外部効果を起こしやすい。橋渡し型 SC は外向きで、様々な集団を跨ぐネットワークからなり、「包含性」がある。橋渡し型 SC は結束型 SC より、家庭と地域の集団を跨ぎ、色々な情報や資源を得ることで、橋渡し型 SC は結束型 SC より、学力により大きな影響を与えると考えられる。SC の量のみならず、型による効果の違いがあるかを検討する必要がある。

中国の先行研究では、中国人学者の朱斌（2018）は、成績に影響する要素について、家庭の階層要因が大学生のアカデミック・アチーブメントに影響を与えると指摘した。彼は成績とサークル活動を分析し、サークル活動ではエリート層の子供は貧困層より活躍すること、成績については貧困層の大学生は他の層より良いことを明らかにした。このことは、貧困層出身の学生は多くの時間を勉学にあてているのに対し、エリート層出身の学生は SC と経済資本の豊かさの関係でだらけてしまう可能性があることを示唆している。朱は成績に影響する要素として、学生自身の勉強意欲と努力という本人自身の要因に注目する。一方、鐘云華（2012）によれば、貧困層の大学生はたとえ学力が高くても、その親がもつ社会関係資本、文化資本と経済資本が不足しており、進学などの進路を選択する時、弱い立場に陥る。子供が家族、親族から受けた「資源」が少ないからである。SC を欠く家庭では、大学生は進路を探す時、受けた援助あるいはアドバイスが少ないことになる。

曹春春（2013）は経済資本以外では、SC が学力に一番影響を与えていると指摘した。親または親戚の社会的地位が高いと、社会関係ネットワークはより広い。このように、大学生にとって、有利な社会的地位は教育機会の獲得と質が良い教育資源を受ける上で有利になっていることが指摘されてきた。

これらの先行研究から、大学生における SC と教育の問題についての仮説を下記のモデルように示したい。

教育と SC の問題を分析する上で、検討する SC として、親が所有する SC、子供（大学生）が所有する SC、家庭内の SC、親子関係の 4 つを本稿でとりあげる。

まず、親の SC と子供の SC の関連を明らかにする。志水ら（2012）によれば、日本では保護者の SC と子供の SC は正の相関がある。また、コールマン（1988）によれば、キョウダイ数は子供の SC に影響する。日本と中国の大学生の場合にこの関連があてはまるかを検証するために、以下の仮説 1 を立てる。日中とも親の SC は大学生の SC に影響する（図 1）。

次に、SC と教育との関係を分析する必要がある。志水とコールマンは家庭内の SC と教育との関係が強いとし、家庭内の SC を重視している。ここでの家庭内の SC に関して、親子関係は強い要素であると推測できる。このことから仮説 2 は以下とする。大学生とその親との関係、すなわち親子関係が良いと、学力も高い（図 1）。仮説 3 はパットナムの議論をうけ、親の橋渡し型 SC は親の結束型 SC より、学力に強い影響を与えることとする。同じく大学生の橋渡し型 SC は大学生の結束型 SC より、学力に強い影響を与えるということを仮説とした（図 1）。

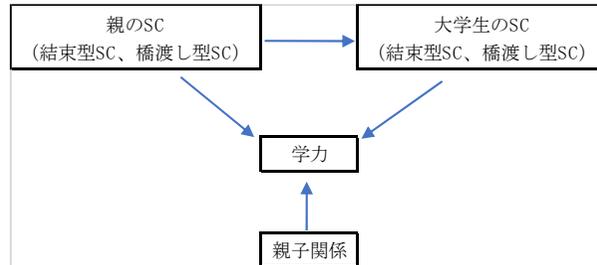


図1 SCおよび親子関係と学力についてのモデル²⁾

コールマンと同じく SC と教育の問題について重要な見解を示した研究者にブルデューがいる。ただし、コールマンと異なり、ブルデュー（1964=1997:36）は、SC の専有者はもっぱらエリート層であり、SC をエリート層による階層再生産の財と考えた。子供の教育についてブルデュー的な特権の作用として、推薦やコネ、勉学における援助や補習授業、教育課程や就職口に関する情報提供などが考えられる。進学推薦も特権の一つと認められ、コネ社会と識別できる項目である。大学生の場合では、特権が SC と関連するのかを検証したい。仮説 4 は、親の学歴が高い大学生の方が、進学推薦を受けた人が多い。親の SC は進学推薦に影響する。また、家庭内の SC は進学推薦に影響する(図 2)。

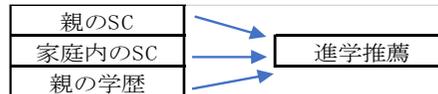


図2 SCと進学推薦についてのモデル

本研究はアンケート調査の結果に基づいて、個人とその親の SC が学力に与える影響について、考察していきたい。日本と中国の大学生を対象に、本人の持っている SC と親の SC を質問し、検討していきたい。

3 調査の概要

3.1 概念の解釈と操作的定義

①集合財と個人財

本稿で利用する SC は個人財である。大きく分けて、親と大学生自身の SC を考察しておきたい。具体的には、次の 3.2 での質問について社会関係を問い、親の場合では、家族³⁾（夫婦間、元配偶者を含む）、親以外の家族（親戚を含む）、友人（親の友達、友達の親⁴⁾）、地縁（近所の人）、学校（学校とその先生⁵⁾）、職場（会社の同僚）、その他（それ以外の専門家、その他）の項目をおいた（図 3）。

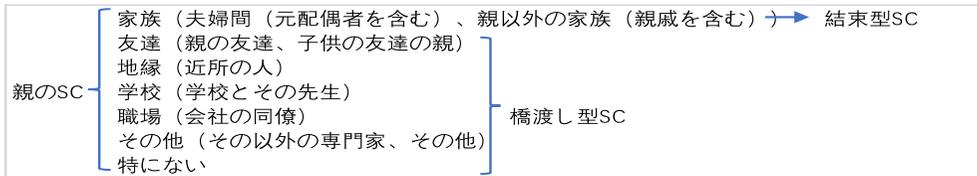


図3 親のSC⁶⁾

大学生自身の場合では、家族（親、親以外の家族（親戚を含む））、学校（先生）、恋人⁷⁾及び友人（中学校の友達、高校の友達、大学の友達、先輩／後輩、バイト先の友達、それ以外の友達）を項目としてあげた（図4）。

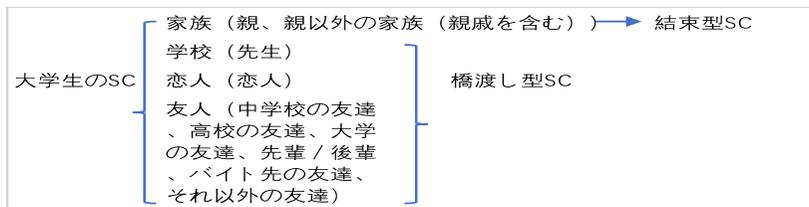


図4 大学生のSC

家庭内でのSCは、親が所有するSCと大学生が持っている家族に関連するSCとした（図5）。

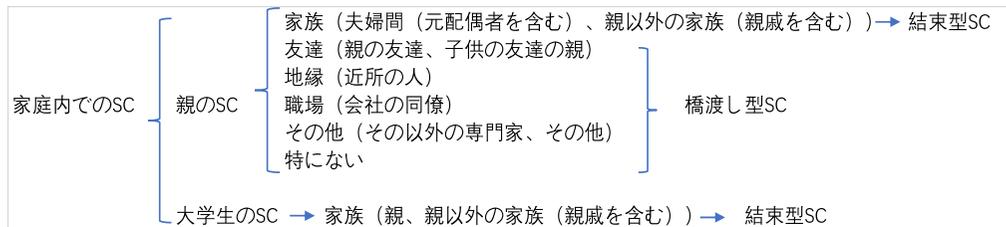


図5 家庭内でのSC

コールマンによると、親子関係は教育に効果を及ぼす要因である。本稿で「両親といろいろな話題がある」、「つらい時、両親は暖かい存在である」と「大学のことを両親とよく話す」という質問項目から日中大学生とその親の関係を聞いた。答えは「全くその通りだ」から「全くその通りでない」まで五つの選択肢をおき、5-1点にスコア化して総和を得点とした。

②関係性の型——結束型SCと橋渡し型SC

本稿はSCの型による効果の違いを検討したい。親のSCでは、家族である夫婦間（元配偶者

を含む）、親以外の家族（親戚を含む）は、閉鎖性と排他性があり、結束型 SC とする。「近所の人」という地縁の SC は、元々親密さにより結束型 SC に入れられることが多いが、現代社会の状況では近所との親密性は低いと認められるので、本稿で「近所の人」という地縁関係は橋渡し型 SC に入れる。また、「近所の人」は日本と中国では意味が異なる。日本では、「近所の人」は自治会、町内会などの地縁関係である一方、中国では、「近所の人」はただ家の近くの周りに住んでいる人で、日本より中国の「範囲」は狭い。そこで、本稿では結束型 SC について、血縁だけ入れた。それ以外の友人、地縁（近所の人）、学校、職場及びその他は、様々な集団を跨ぐネットワークであるので、橋渡し型 SC とする。大学生の SC について、学校、恋人と友人は橋渡し型 SC に属し、家族は結束型 SC に属する。

3.2 SC を測る方法

本稿で SC を測定するため、大学生に対し、親と大学生本人の社会関係を聞いた。その質問は情緒援助、情報援助と手段援助を含んでいる。

情緒援助とは、情緒がよくない時の援助である。今回の調査では、「あなたは個人的な悩みについて、次の人に相談しますか（大学生 SC）」「あなたが困った時、両親は誰かに相談しますか（親 SC）」を質問した。情報援助とは、アドバイス、情報といったアイデアあるいは経験をシェアすることに関連する援助である。アンケートで聞いた質問は、大学生 SC については、「学業に関して誰かに相談するのか」、「将来の進路は誰かに相談するのか」と「大学以外の勉強（免許や資格やボランティア活動を含む）は誰かに相談するのか」である。親 SC に関しては、「大学生が進路に迷った時、両親は誰かに相談するのか」である。手段援助⁸⁾とは、実質的なものをもらう援助である。たとえば、お金などの直接的な援助である。アンケートでは、大学生 SC の項目はないが、親 SC の項目として、「もし授業料あるいは生活費が足りない時、誰かに援助してもらうのか」と「ある学校に入りたい時、両親は誰かに推薦の援助をもらいましたか」という質問を聞いた。これらの質問に対し 3.1 であげた項目から複数回答で回答してもらい、選択された社会関係を 1、選択されなかった社会関係を 0 とスコア化し合計した。点数が高い人は SC が多いと認められる。

3.3 学力

学力は曖昧な言葉である。学力とは英語で翻訳すれば、「アカデミック・アチーブメント」である。「学業達成」に似ているが、「学力」はさらに近い。志水（2005：37）によれば、学力は三つの要素がある。一つ目は、狭い意味の「学力」である。具体的に言えば、知識、理解、技能である。二つ目は、学校でのペーパーテストで測ることが難しいが、学力に関わっている思考力、判断力、論理構成力、考え力と表現力である。三つ目は、意欲、関心と態度である。

上記理論を踏まえて、本稿で考察した項目は、一つ目は大学生の成績である。二つ目は大学

生の総合能力である。三つ目は大学生の勉強意欲である。

大学生の成績は大学生の GPA を考察した。課外活動は、成績以外の活動意欲を考察した。現在は新型コロナウイルスがまだ終息していない時期で、人とは社交距離を保っているので、活動という項目は意欲でしか測っていない。調査した項目は、「コロナが終息した後の社会活動（ボランティア、NPO など活動を含む）」、「コロナが終息した後のアルバイト」及び「コロナが終息した後の趣味活動」についてである。三つ目の項目は、大学生の勉強意欲である。アンケートの「大学生活について、『大学の授業』、『免許や資格取得』と『自主的な勉強』という項目にどれくらい力を入れてきたのか」を用いた。

3.4 調査の概要

2020年11月から12月、日中の大学生を調査対象として、オンライン調査を行った。日本で調査した学校は新潟大学である。新潟大学は日本の国立大学で、学費は私立大学より安い。総合大学で、学部数は10、大学院数は6である⁹⁾。学部の学生数は10,179人で、大学院の学生数は2,000人くらいである¹⁰⁾。また、日本の大学ランキングでは比較的上位にあり、大学生の成績は良いと推測できる。中国の調査対象は北京師範大学珠海分校で、公立大学であるが学費の面では私立大学並である。総合大学で、学部数は15、学生数は23,000人程である。大学のランキングは広東省では比較的上位である。両校とも授業担当教員に協力を依頼し、調査に協力してくれる大学生を募集した。その結果、日中各100人から回答を得ることができた。調査対象の属性は表1の通りである。

表1 回答者の属性

		日本	中国	合計
性別	男性	44.0%	36.0%	40.0%
	女性	56.0%	64.0%	60.0%
学部分類	文科系	70.0%	63.0%	66.5%
	理科系	29.0%	26.0%	27.5%
	その他	1.0%	11.0%	6.0%
学年	1年	56.0%	6.0%	31.0%
	2年	33.0%	9.0%	21.0%
	3年	3.0%	24.0%	13.5%
	4年かつ	8.0%	61.0%	34.5%
	4年以上			
日本-出身地	農村部	66.0%		66.0%
	都市部	34.0%		34.0%
中国-大学受験前の戸籍地	農村部		64.0%	64.0%
	都市部		36.0%	36.0%
キョウダイ数	いない	9.0%	24.0%	16.5%
	1~2人	89.0%	53.0%	71.0%
	3人あるいは3人以上	2.0%	23.0%	12.5%
一人っ子であるかどうか	一人っ子	9.0%	24.0%	16.5%
	キョウダイがいる	91.0%	76.0%	83.5%

表に見るように、回答者は男女比 4 : 6 で、文科系対理科系 7 : 3 である。学年について、日本は 1 年生と 2 年生が多く、中国は 3 年生と 4 年生が多い。農村部と都市部の出身地比は両国とも 6 : 4 である。また、キョウダイ数について、日本の場合、9%が一人っ子で、91%はキョウダイがいる。中国の場合では、一人っ子である人は 24%で、キョウダイを持っている人は 76%である。その中、キョウダイ数が 1~2 人である人は 53%で、キョウダイ数が 3 人あるいは 3 人以上の人は 23%である

4 仮説の検証

4.1 国籍別で見る大学生の SC

表 2 国籍別に見る大学生 SC のクロス表

		日本	中国	有意確率
大学生SC-親	低位層	7.0%	9.0%	*
	中位層	18.0%	33.0%	
	高位層	75.0%	58.0%	
大学生SC-家族 (親+親戚)	低位層	22.0%	34.0%	+
	中位層	61.0%	56.0%	
	高位層	17.0%	10.0%	
大学生SC-学校	低位層	61.0%	44.0%	*
	中位層	35.0%	47.0%	
	高位層	4.0%	9.0%	
大学生SC-恋人	低位層	80.0%	54.0%	***
	中位層	10.0%	16.0%	
	高位層	10.0%	30.0%	
大学生SC-友人	低位層	45.0%	38.0%	ns
	中位層	53.0%	60.0%	
	高位層	2.0%	2.0%	

+p<0.1、*p<0.05、***p<0.001

まず、大学生の SC の量を国別に比較した（表 2）。3.2 の質問項目で○をつけた選択肢ごとに和を求め、その得点を低位層、中位層と高位層という 3 つのグループに分類した。国別では親、家族、学校、恋人との SC に有意差が見られる。友人との SC は有意差が見られない。日本人の大学生は親や家族との SC は中国より多い。学校との SC は、中国人の大学生は日本より多いと見られる。恋人との SC について、国籍と強い関連がみられ、中国人の大学生の方が多い。友人との SC について、有意差が見られない。

4.2 国籍別で見る大学生のSC——情緒援助、情報援助

表3 国籍別で見る大学生 SC-情緒援助、情報援助

		日本		中国	有意確率
情緒援助	親	低位層	33.0%	54.0%	*
		高位層	67.0%	46.0%	
	家族	低位層	30.0%	50.0%	*
		中位層	53.0%	44.0%	
		高位層	17.0%	6.0%	
	学校	低位層	94.0%	95.0%	ns
		高位層	6.0%	5.0%	
	恋人	低位層	82.0%	67.0%	*
		高位層	18.0%	33.0%	
	友人	低位層	44.0%	43.0%	+
中位層		49.0%	56.0%		
高位層		7.0%	1.0%		
情報援助	親	低位層	7.0%	11.0%	+
		中位層	33.0%	44.0%	
		高位層	60.0%	45.0%	
	家族(親+親戚)	低位層	17.0%	16.0%	ns
		中位層	68.0%	74.0%	
		高位層	15.0%	10.0%	
	学校	低位層	12.0%	8.0%	ns
		中位層	76.0%	71.0%	
		高位層	12.0%	21.0%	
	恋人	低位層	83.0%	55.0%	***
		中位層	9.0%	24.0%	
		高位層	8.0%	21.0%	
	友人	低位層	33.0%	22.0%	ns
中位層		63.0%	70.0%		
高位層		4.0%	8.0%		

+p<0.1、*p<0.05、***p<0.001

① 情緒援助について

大学生のSCの情緒援助について、大学生の親、家族、恋人と友人について国による有意差がみられる。親と家族(親+親戚)からの情緒援助については、日本人の大学生は中国より多い。学校に情緒援助をしてもらうかどうかについては有意差が見られなかった。恋人に情緒援助をしてもらうことは国の要因によって差があり、中国人の大学生に多い。友人に情緒援助をしてもらうことと国の要因は関連がみられなかった。

② 情報援助について

情報援助についても国籍による違いがみられた。日本人の大学生は親から情報援助をもらう人が中国人の大学生より多い。恋人から情報援助をもらうことは中国人に多い。家族(親+親戚)と学校と友人から情報援助をもらうことについて国の要因には関連がみられない。

個人の社会関係資本と親の社会関係資本が学力に与える影響（呉雨婷）

4.3 親の SC と大学生の SC との関連

志水・高田（2012）は小学生を対象として、親の SC は子供の SC に影響を与えることを実証した。大学生の場合、親の SC が大学生の SC に影響があるかどうかはまだ実証されておらず、ここで検証しておきたい。結果は下記で見てみよう。

4.3.1 国籍別でみる親の SC と大学生の SC

親の SC と大学生の SC との関係について、国籍を制御して、親の SC と大学生の SC は関係があるかどうかを検証する。

表 4 国籍別で見る親の SC と大学生の SC 線型

国籍		非標準化係数		標準化係数	調整済み R2 乗	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
日本	定数	1.937	1.476		0.27	ns
	親SC	1.26	0.205	0.527		
中国	定数	6.374	1.213		0.185	***
	親SC	0.58	0.12	0.44		
***p<0.001						

表 4 によると、日本において、親の SC が 1 単位増加すると、大学生の SC が 1.26 増加した。中国において、親の SC が 1 単位増加すると、大学生の SC が 0.58 増加した。日本と中国とも、親の SC が大学生の SC に影響することがわかった。

4.4 学力について

表5 SCと学力のクロス表／日本

		GPA				課外活動				勉強意欲			
		低位層	中位層	高位層	有意確率	低位層	中位層	高位層	有意確率	低位層	中位層	高位層	有意確率
親の結束型SC	低位層	3.6%	80.4%	16.1%		92.9%	7.1%	0.0%		33.9%	51.8%	14.3%	
	中位層	0.0%	78.4%	21.6%		94.6%	2.7%	2.7%		18.9%	59.5%	21.6%	
	高位層	0.0%	85.7%	14.3%		100.0%	0.0%	0.0%		42.9%	57.1%	0.0%	
親の橋渡し型SC	低位層	2.6%	80.5%	16.9%		94.8%	5.2%	0.0%		28.6%	57.1%	14.3%	
	中位層	0.0%	81.8%	18.2%		90.9%	4.5%	4.5%		31.8%	45.5%	22.7%	
	高位層	0.0%	0.0%	100.0%		100.0%	0.0%	0.0%		0.0%	100.0%	0.0%	
大学生の結束型SC	低位層	9.1%	90.9%	0.0%		90.9%	9.1%	0.0%		45.5%	45.5%	9.1%	
	中位層	0.0%	82.0%	18.0%	*	95.1%	3.3%	1.6%		26.2%	55.7%	18.0%	
	高位層	0.0%	58.8%	41.2%		94.1%	5.9%	0.0%		17.6%	64.7%	17.6%	
大学生の橋渡し型SC	低位層	2.0%	76.5%	21.6%		88.2%	9.8%	2.0%		36.1%	36.1%	27.8%	
	中位層	2.4%	85.4%	12.2%		100.0%	0.0%	0.0%		23.2%	67.9%	8.9%	*
	高位層	0.0%	75.0%	25.0%		100.0%	0.0%	0.0%		37.5%	50.0%	12.5%	
親子関係	低位層	25.0%	75.0%	0.0%		75.0%	25.0%	0.0%		75.0%	0.0%	25.0%	
	中位層	1.9%	84.6%	13.5%	**	94.2%	5.8%	0.0%		26.9%	55.8%	17.3%	
	高位層	0.0%	75.0%	25.0%		95.5%	2.3%	2.3%		27.3%	59.1%	13.6%	
家庭内のSC (親戚含む)	低位層	7.7%	88.5%	3.8%		92.3%	7.7%	0.0%		38.5%	53.8%	7.7%	
	中位層	0.0%	77.9%	22.1%	*	94.1%	4.4%	1.5%		26.5%	54.4%	19.1%	
	高位層	0.0%	66.7%	33.3%		100.0%	0.0%	0.0%		16.7%	66.7%	16.7%	

*p<0.05、**p<0.01

表6 SCと学力のクロス表／中国

		GPA				課外活動				勉強意欲			
		低位層	中位層	高位層	有意確率	低位層	中位層	高位層	有意確率	低位層	中位層	高位層	有意確率
親の結束型SC	低位層	9.1%	68.2%	22.7%		68.2%	27.3%	4.5%		13.6%	50.0%	36.4%	
	中位層	3.7%	75.9%	20.4%	*	77.8%	16.7%	5.6%		5.6%	48.1%	46.3%	
	高位層	0.0%	50.0%	50.0%		83.3%	12.5%	4.2%		8.3%	45.8%	45.8%	
親の橋渡し型SC	低位層	8.3%	77.8%	13.9%		75.0%	16.7%	8.3%		13.9%	30.6%	55.6%	
	中位層	1.9%	61.5%	36.5%		78.8%	19.2%	1.9%		5.8%	57.7%	36.5%	*
	高位層	0.0%	66.7%	33.3%		75.0%	16.7%	8.3%		0.0%	58.3%	41.7%	
大学生の結束型SC	低位層	2.9%	73.5%	23.5%		64.7%	26.5%	8.8%		14.7%	61.8%	23.5%	
	中位層	5.4%	66.1%	28.6%		87.5%	8.9%	3.6%	**	5.4%	39.3%	55.4%	*
	高位層	0.0%	60.0%	40.0%		60.0%	40.0%	0.0%		0.0%	50.0%	50.0%	
大学生の橋渡し型SC	低位層	6.5%	61.3%	32.3%		77.4%	19.4%	3.2%		5.9%	41.2%	52.9%	
	中位層	1.9%	69.2%	28.8%		73.1%	21.2%	5.8%		9.1%	50.0%	40.9%	
	高位層	5.9%	76.5%	17.6%		88.2%	5.9%	5.9%		5.9%	47.1%	47.1%	
親子関係	低位層	0.0%	87.5%	12.5%		87.5%	0.0%	12.5%		12.5%	37.5%	50.0%	
	中位層	5.5%	68.5%	26.0%		78.1%	17.8%	4.1%		8.2%	43.8%	47.9%	
	高位層	0.0%	57.9%	42.1%		68.4%	26.3%	5.3%		5.3%	68.4%	26.3%	
家庭内のSC (親戚含む)	低位層	6.7%	73.3%	20.0%		53.3%	40.0%	6.7%		20.0%	46.7%	33.3%	
	中位層	5.1%	66.1%	28.8%		81.4%	13.6%	5.1%		8.5%	45.8%	45.8%	
	高位層	0.0%	69.2%	30.8%		80.8%	15.4%	3.8%		0.0%	53.8%	46.2%	

*p<0.05、**p<0.01

4.4.1 親の SC と大学生の学力との関係

① 親の結束型 SC と学力との関係

学力の3つの項目について、国別に SC との関連を分析した（表5、表6）。

全体的にみると、親の結束型 SC と学力との関係について、関連性がある項目は中国での親の結束型 SC と GPA だけである。親の結束型 SC は親の教育意欲と教育意識など内的な意識と関連があるので、この結果は中国の現在の教育をめぐる潮流と符号するといえる。劉俊利(2019)が述べるように、現在の中国では、経済発展に伴い中間層も多くなっている。その中間層は安定した仕事を持ち、比較的高学歴で、高収入である。中間層は、貧困層より上位に思っている一方、富裕層のような権力と社会の影響力を持っていないため、それらの人に対し卑下感と不安感がある。そのため、「教育は階層上昇の道具」という考えを持ち、子供に希望を託し子供の教育に熱心になる。このような社会的風潮の中で、親たちは「教育熱心」になり、自分の栄光と子供自身の将来のために、教育に注力するのである。

② 親の橋渡し型 SC と学力との関係

表5、6に見る通り、日本では親の橋渡し型 SC と学力とは関係が見られない。しかし、中国において、勉強意欲と親の橋渡し型 SC との間に関連がある。親の橋渡し型 SC が高いと大学生の勉強意欲も高い傾向がある。ただし、勉強意欲が最も高い層では親の SC は関係が見られない。橋渡し型 SC は親の性格、親の行動など外的なものに関連するので、親たちは家庭あるいは地域を跨いで様々な情報を収集し、大学生の学力を促進する。それが大学生の勉強意欲に影響するのではないかと思われる。

4.4.2 大学生の SC と学力との関係

① 大学生の結束型 SC と学力

大学生の結束型 SC と学力について、日本の場合、GPA と正の相関が見られる。結束型 SC は外集団に対して排他性があり、家庭内部の SC と同じ傾向を示すと理解できる。成績において、日本人の大学生は家庭内部の SC に影響されると言える。

残り二つの項目、すなわち、課外活動と勉強意欲については中国の大学生において関連がみられる。課外活動について、中国では負の相関がみられる。大学生の結束型 SC が低位層にあると、課外活動が高位層にある比率が一番高い。日本において、大学生の結束型 SC と課外活動は関係がない。課外活動は GPA のような伝統的な学力の評価基準ではなく、GPA をより重視する大学生は、社会活動（ボランティア、NPO などの活動を含む）、アルバイトと趣味活動といった課外活動をそれほど重要視せず、それほど熱心に参加しないことが推測される。勉強意欲について、中国では学生の結束型 SC が低いと、勉強意欲が低位層にある者が多いことがわかる。

以上、まとめると大学生の結束型 SC と学力との関係について、日本では結束型 SC と GPA に正の相関がある。大学生の結束型 SC は血縁と自分自身の意欲などの内的なものを測定したものであるため、日本人の大学生の成績は家族と自身の意欲などが関連すると推測できる。中国では、大学生の結束型 SC と課外活動と勉強意欲が関連している。大学生の結束型 SC は自分自身の意欲、性格及び意識と家族と関連があるので、これらは中国人の大学生の課外活動と勉強意欲に影響する。また、中国では教育に対する不安感が強く、教育を通じて階層の上昇を実現しようという雰囲気が高い。大学生自身がその圧力を感じて、その勉強意欲に影響するのかもしれない。

② 大学生の橋渡し型 SC と学力

橋渡し型 SC は、多様な集団からなるものである。多様性があるので、様々な情報も入手でき、それが学力に影響するかもしれない。次に大学生の橋渡し型 SC と学力との関係を検討してみよう。表 5、6 から見る通り、大学生の橋渡し型 SC と GPA と課外活動は日中とも無相関である。しかし、大学生橋渡し型 SC と勉強意欲の関係については、中国は無相関であるが、日本は関連がみられる。大学生の橋渡し型 SC が高位層にあると、勉強意欲が高位層に人数が少ないことがわかる。大学生の橋渡し型 SC は家族を除いて学校、先生、恋人、友人といった家族を跨いだ SC である。家族だけの結束型 SC より様々な情報が入手できる。すなわち、外部の情報が日本人の大学生の勉強意欲に負の相関であることを示している。

4.4.3 親子関係と学力との関係

これまで検証したように、親が所有する SC が大学生の SC に影響し、さらに学力に影響する。次は家庭内の SC である親子関係と学力の関係を検討してみよう。

表 5、6 から、親子関係と GPA との関係では、日本には相関がみられるが、中国は関連が見られない。日本では、親との関係が低位層であれば、GPA も低位層にある比率が高い一方、親子関係が高位層であれば、GPA が高位層にある比率が一番高い。これより、日本では中国と異なり、親子関係が大学生の GPA に影響することがわかる。

課外活動と勉強意欲については、日中とも親子関係との関連は見られなかった。

4.4.4 家庭内の SC と学力について

表 7 家庭内の SC（親戚含む）と GPA の線型

国籍		非標準化係数		標準化係数	調整済 み R2 乗	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
日本	定数	1.761	0.144		0.069	***
	家族SC （親戚含む）	0.221	0.077	0.281		**
中国	定数	2.062	0.18		0.001	***
	家族SC （親戚含む）	0.084	0.082	0.104		ns
***p<0.01、**p<0.001						

表 5、表 6 では、日本の学生のみ家庭内 SC と成績の関連がみられた。回帰分析をおこなったところ（表 7）、日本において、家庭内の SC が大学生の GPA に与える効果が見られ、家庭内の SC が 1 単位増加すると、大学生の GPA は 0.221 増加する。日本の結果は親子関係や家庭内 SC を重視したコールマンの説に当てはまっているが、中国は当てはまらないことがわかる。

4.5 進学推薦について

ブルデュー（1964=1997：36）によれば、SC は特権として作用し、推薦やコネ、勉強における援助や補習授業、教育課程や就職口に関する情報などがそれにあたると考えられる。本稿ではコネをとりあげ進学推薦をもらったかどうかを手がかりにし、国別で比較して検討する。

4.5.1 進学推薦率

表 8 進学推薦を受けるかどうか／国籍別

		日本	中国	合計
進学推薦	受けた	15.0%	77.0%	46.0%
	受けなかった	85.0%	23.0%	54.0%
合計		100.0%	100.0%	100.0%
国別p<0.05				

進学する時、推薦を受けたか否かを国別で比較すると、日本より中国の方が多い。中国の大学生は進学推薦を受けた比率は 77% で、日本は 15% である（表 8）。

4.5.2 何が進学推薦に影響するか

表9 進学推薦と属性、SC、GPA とのクロス表／国籍別

		日本			中国		
		もらった	もらわなかった	有意確率	もらった	もらわなかった	有意確率
GPA	低位層 (2.0以下)	0.0%	100.0%	ns	50.0%	50.0%	ns
	中位層 (2.0～3.5)	12.5%	87.5%		75.0%	25.0%	
	高位層 (3.5以上)	27.8%	72.2%		85.7%	14.3%	
親学歴	低位層 (中・高校*2)	18.2%	87.1%	ns	80.0%	20.0%	ns
	中位層 (中・高校+専修など/専修*2)	12.9%	87.1%		73.3%	26.7%	
	高位層 (専修など+大学など/大学*2)	14.9%	85.1%		75.0%	25.0%	
父親の職業種類	公務員	0.0%	100.0%	*	85.7%	14.3%	ns
	会社員	13.8%	86.2%		66.7%	33.3%	
	自営業	37.5%	62.5%		77.8%	22.2%	
	その他	28.6%	71.4%		76.0%	24.0%	
親SC	低位層	12.5%	87.5%	ns	64.3%	35.7%	*
	中位層	22.7%	77.3%		73.7%	26.3%	
	高位層	16.7%	83.3%		91.2%	8.8%	
家族SC (親戚含む)	低位層	7.7%	92.3%	ns	46.7%	53.3%	**
	中位層	17.6%	82.4%		78.0%	22.0%	
	高位層	16.7%	83.3%		92.3%	7.7%	

*p<0.05、**p<0.01

親の学歴や職業、SCなどの資本が進学推薦に影響を与えるか分析した(表9)。日本の場合、父親の職種が進学推薦に影響を与える。日本において、大部分の家庭では、父親が母親より、有力な稼ぎ手である。そして、父親の職種は家庭の収入、地位、資源などに影響するので、本項で父親の職種を手がかりとして、進学推薦との関係を検討してみよう。表から見ると、父親が自営業の大学生は、進学推薦をもらった人が多いことがわかる。一方、父親が公務員の大学生は、進学推薦をもらった人がいない。中国の場合では、親のSCと家族のSCが進学推薦に影響し、正の相関が見られる。中国では、SCはコネとして作用する場合が多いと考えられる。日本ではこれらの関係は見られない。

5 結論

以上の分析をふまえ、仮説を検証し本研究の結論をまとめてみよう。

5.1 仮説1 日中とも親のSCは大学生のSCに影響する。

分析の結果、仮説1は正の相関があると検証された。また、本稿では、親のSCと大学生の

個人の社会関係資本と親の社会関係資本が学力に与える影響（呉雨婷）

SC の関係以外に、大学生の SC について詳しく分析した。結果、親と学校に関する大学生の SC について国籍と関連性がある。また、恋人との SC について国別で大きな違いがある。日本では親や家族、中国では学校や恋人との SC が多い。情緒援助について見ると、親、家族、恋人と学校は国籍と関連がある。

5.2 仮説 2 大学生とその親との関係、すなわち親子関係が良いと、学力も高い。家庭内の SC は大学生の成績に影響する。

先に親子関係と学力の関係をまとめよう。日本の場合では、親子関係は GPA に影響する。親子関係と大学生の GPA に正の相関が見られる。次に、家庭内の SC について、日本の場合では GPA と正の相関がある。中国では、家庭内の SC と学力の関連は見られなかった。コールマン（1988）によれば、家庭内の SC は子供の教育に影響する。また、その中でも親子関係は重要なものである。親子関係および家庭内の SC と学力の関係をみると、日本の SC はコールマンが提出した SC に合致すると考えられよう。

5.3 仮説 3 親の橋渡し型 SC が親の結束型 SC より、学力に強い影響を与える。同じく大学生の橋渡し型 SC は大学生の結束型 SC より、学力に強い影響を与える。

日本の場合では、親の結束型 SC および橋渡し型 SC は学力に影響を与えないと判断できる。すなわち、日本の場合、仮説 3 の親の SC に関する部分はあてはまらない。一方、大学生の結束型 SC は GPA に影響する。大学生の橋渡し型 SC は勉強意欲に影響する。中国の場合では、親の結束型 SC は GPA に影響する。親の橋渡し型 SC は勉強意欲に影響する。大学生の結束型 SC は課外活動と勉強意欲に影響するが、大学生の橋渡し型 SC は学力に影響を与えなかった。まとめると、親の結束型 SC、親の橋渡し型 SC、大学生の結束型 SC 及び大学生の橋渡し型 SC はそれぞれがさまざまな形で学力に影響を与え、単純に橋渡し型 SC は効果が強いとはいえない。そして SC の効果は国により異なることもわかった。

5.4 仮説 4 親の学歴が高い大学生の方が、進学推薦を受けた人が多い。親の SC は進学推薦に影響する。また、家庭内の SC は進学推薦に影響する。

進学推薦について、国籍との関連がみられた。中国の方が、進学推薦を受けた大学生が多い。そして、親の職業や学歴、SC といった項目と進学推薦に関連性があるかどうかを検討した。結果、日本の場合では、父親の職種と進学推薦を受ける状況に関連がみられ、父親が自営業の大学生は進学推薦を受けた人が多い一方、父親が公務員である大学生は進学推薦を受けた人が少ない。中国の場合では、親の SC が進学推薦に影響する。親の SC が少ないと、進学推薦を受けた人も少ない。親の SC が高いと、進学推薦を受けた人が多い。また、中国において、家庭内の SC は進学推薦に影響する。家庭内の SC が高位層にあると、進学推薦を受けなかった比率は一

番低い。進学推薦は特権の一つと認められ、いわゆるコネ社会を象徴する項目である。このことから、中国の SC はブルデューが提出した SC により性質が近いと考えられよう。

6 まとめ

以上、SC と教育の関連について日中に違いがあるかに注目し検討をおこなった。中国でのことわざ「寒門出貴子」（貧困な家庭では優秀な子供が育てられる）であるという課題について、日中の状況に関して実証結果を踏まえてまとめよう。大学生の SC をみると、日本人の大学生は親と親戚を一番大切にしており、情緒援助も情報援助もいずれも、中国人の大学生より親と親戚という SC をあげることが多い。日本人の親は大学生の情緒を援助し、情報をシェアすることが明らかになった。本稿での結束型 SC は血縁だけで測定したが、日本人の大学生の結束型 SC はその GPA に影響する。また、親子関係は家庭内の SC の重要な要素である。親子関係と GPA の関係について、日本人の大学生では正の相関がある。つまり、日本人の大学生の密な親子関係や家庭内の感情的なもの、豊かな血縁関係は成績に影響するといえる。これをみると、日本の SC はコールマンが定義した SC に近いと考えられるだろう。

このような関連は中国人の大学生では見られなかった。中国人の大学生の場合、進学推薦に特徴があり、それを手がかりとして検討しよう。結果をみると、進学推薦という特権作用を持っているものについては、日本人より中国人の方が多い。中国人の大学生では、親の SC と進学推薦の関係、また家庭内の SC の関係は正の相関である。日本人の大学生はこれらの項目で相関性がない。このように見ると、中国の SC はブルデューが定義した SC に近い作用があると考えられるだろう。

中国社会では特権が横行しコネが大事となっていることは、貧困な家庭で育てられる子供の教育達成に不利を生みだしている。ただし、学力と SC についてさらに分析結果をみると、親の結束型 SC は大学生の GPA に影響するが、この場合の親の結束型 SC とは夫婦間（元夫婦を含む）と親戚とからなるつながりをさす。すなわち、家族のメンバー間の SC は大学生の GPA に重要となっている。また、親の橋渡し型 SC は大学生の勉強意欲に影響する。これらのことから親自身の教育意識と教育意欲が大学生の GPA に影響する。親の外部の情報が大学生の勉強意欲に影響を与えていることがわかる。大学生自身の結束型 SC を見ると、課外活動と勉強意欲に影響している。これらの分析結果をふまえると、コネ社会の中国では、貧困な家庭はコネがないと教育達成が難しいことは確かに考えられるが、親や大学生自身の SC によってそれを乗り越えることも可能である。すなわち親自身の教育意識と大学生自身の勉強意欲があれば、困難な中でも努力し教育達成できる可能性を見いだせるだろう。

<注>

1) 興味クラスとは、子供の教育のため、バイオリン、ピアノ、書道、英語、数学、ソフトウェアなどを

教えるクラスである。

- 2) 図表は全て筆者作成。
- 3) 日本と中国では、「家族」という範囲は異なる。日本では、ある場合には「親戚」は「家族」の中に含まず、中国は含んでいる。そこで、SCを測定する時、家族と親戚を合わせるサンプルと合わせないサンプルを設置した。
- 4) 「あなたの親の友達」という項目は、親の「友人」に含まれるが、大学生自身の友達の親も、大学生と関連しているSCであるため選択肢に入れた。
- 5) 「学校とその先生」という項目は、親のSCに含めているが、大学生自身の先生なので、大学生と関連している。そこで、大学生関連のSCにも入れた。
- 6) 親の社会関係について学生に回答してもらった。
- 7) 「恋人」を他から区別した理由は、その回答の比率が日中間で差があり、さらに追求する必要があるからである。
- 8) 本稿では、手段援助について、アンケート調査で大学生のSCを聞かず親のSCのみを質問したため、手段援助については分析から外している。
- 9) 新潟大学の公式サイト <https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/organization/charts/>参照
- 10) 新潟大学の公式サイト <https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/data/student/>参照

<参考文献>

- Bourdieu, Pierre & J.C.Passeron (1964) *Les Héritiers: Les Étudiants et la culture*, Éditions de Minuit. (=1997, 石井洋二郎・小澤浩明・高塚浩由樹・戸田清訳『遺産相続者たち』藤原書店)
- 曹春春(2013)「家庭資本与大学生学习成绩关系的研究—以A大学为例—」安徽师范大学 修士論文2013.03 : 1-48.
- 古田和久 (2018)「出身階層の資本構造と高校生の進路選択」社会学評論 69.1 : 21-36
- 石川由香里・杉原名穂子・喜多加実代・中西祐子 (2018)『子育て世代のソーシャルキャピタル』有信堂.
- 近藤博之 (2012)「社会空間と学力の階層差」教育社会学研究 2012.90 : 101-121
- Coleman, J. (1988) “Social Capital in the Creation of Human Capital”, *American Journal of Sociology*, 94:S95-S120.(=2006, 金光淳訳「人的資本の形成における社会関係資本」野沢慎司編訳『リーディングス ネットワーク論』勁草書房, 205-238)
- 劉俊利 (2019)「社会分层与教育资本视域下国内中产阶层教育焦虑问题研究」河北师范大学 (修士論文) 2019.05 : 1-70.
- 劉玲 (2019)「布尔迪厄资本“符号”运作研究—兼谈“寒门难出贵子”」南宁师范大学学报 (哲学社会科学版) 41.1 : 74-80.
- 応中元 (2020)「“寒门难出贵子”的时代困境与逆袭之路」中国青年研究 2020.08 : 89-95.
- Putnam.R.D.(2000) *Bowling Alone:The Collapse and Revival of American Community*, Simon & Schuster. (=2006, 柴内康文訳『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房)
- Lauder,Hugh, P.Brown, J-A.Dillabough and A.H.Halsey, (2006) *Education, Globalization, and Social Chang*, Oxford University Press. (=2012, 荻谷剛彦・志水宏吉・小玉重夫訳『グローバル化・社会変動と教育 第2巻』東京大学出版会)
- 志水宏吉 (2005)『学力を育てる』岩波新書.
- 志水宏吉・高田一宏 (2012)『学力政策の比較社会学 全国学力テストは都道府県に何をもたらしたか』明石書房.
- 杉原名穂子 (2014)「母親のSCと教育意欲—地域間比較調査から—」人文科学研究 (新潟大学) 135 : 21-46
- 鐘云華 (2012)「阶层背景对大学生学业成就影响的实证分析」高教发展与评估 28.2 : 108-115.
- 朱斌 (2018)「文化再生产还是文化流动—中国大学生的教育成就获得不平等研究」社会学研究 (中国社会科学院社会学研究所) 2018.01 : 142-167.

主指導教員 (杉原名穂子准教授)、副指導教員 (松井克浩教授、渡邊登教授)